



INDEX

- ・このくらいは知っておきたい「済生会小史」
- ・ソーシャルインクルージョンを考えるWebメディア「シンク！」
- ・済生会看護部リクルートサイト
- ・済生会のマスコットキャラクターご存知ですか？
- ・ソーシャルインクルージョン講演会「100年暮らしたいソーシャルインクルージョンなまちづくり」
- ・90周年記念ロゴ完成!!
- ・済生会フェア開催決定!!
- ・市民公開講座（7月・8月の予定）
- ・北上済生会病院presents地域と共に
- ・済生会から始まるUPCYCLE
- ・看護の心を伝える「ふれあい看護体験」

結

ゆい

vol. 01

July 2025

人と人とのつながりがここにある

このくらいは知っておきたい 「済生会小史」

済生会とは？



明治44（1911）年2月11日の紀元節（現在の建国記念日）に、明治天皇は時の総理大臣・桂(かつら)太郎を呼び、勅語(※1)を発し、同時に内帑金(※2)150万円(※3)が下賜されて済生会が創設されました。

当時の日本は、欧米列強と並ぶために富国強兵策を進めていましたが、その一方で、戦争で傷ついたり、一家の大黒柱を失ったりして、多くの人々が病気や貧困に苦しんでいました。こうした人々を救うため、明治天皇は医療を中心とした支援を行なう団体を作ることを提唱しました。

初代総裁には伏見宮貞愛親王、会長には桂太郎、医務主管には北里柴三郎が就任しています。

創設後、各地に診療所(※4)を設け、貧困所帯に無料の診療券を配布。巡回診療班を編成してスラム街を回り、診療や保健指導を行ないました。その精神は今でも済生会独自の生活困窮者への支援事業「なでしこプラン」として受け継がれています。

貧しい地域を巡る巡回診療班の姿は、日本画家・片山南風（かたやまなんぷう）と荒井廣成（あらいひろなり）の合作による日本画にも描かれています。



※済生会本部の大会議室に飾られています。

「勅語書(※5)」

朕惟フニ世局ノ大勢ニ隨ヒ
國運ノ伸張ヲ要スルコト
方ニ急ミシテ經濟ノ狀況
漸ニ革マリ人心動モスレハ
其ノ歸向ヲ謬ラムトス政ヲ
爲ス者宜ク深ク此ニ鑑ミ
倍々憂勤シテ業ヲ勸メ
教ヲ敦クシ以テ健全ノ發
達ヲ遂ケシムヘシ若夫レ
無告ノ窮民ニシテ醫藥
給セス天壽ヲ終フルコト
能ハサルハ朕ク最軫念シテ
措クサル所ナリ乃チ施藥
救療以テ濟生ノ道ヲ弘メム
トス茲ニ内帑ノ金ヲ出タシ
其ノ資ミ充テシム御克ク朕ク
意ヲ體シ宜キニ隨ヒ之ヲ
措置シ永ク衆庶ヲシテ
頼ル所アラシムコトヲ期セヨ

濟生勅語の大意

私が思うには、わが国は世界の大勢に対応して、国運の伸長を急務としてきた。経済情勢はようやく改まったが、国民の中には考え方を誤る者も出てきた。政治を預かる者は、動揺する人心を考慮して、これに十分な対策を講ずる必要がある。勸業と教育に意を用い、国民の健全な発展に尽力しなければならない。

もし、国民の中に頼るべきところもなく、困窮して医薬品を手に入れることができず、天寿を全うできない者があるとすれば、それは私が最も心を痛めるところである。こうした人々に対し無償で医薬を提供することによって命を救う「濟生」の活動を広く展開していきたい。その資金として皇室のお金を出すことにした。総理大臣はこの趣旨をよく理解して具体的な事業をおこし、国民が末永く頼れるところとしてもらいたい。

「濟生勅語」は造語

機関誌「濟生」昭和12年5月号に宮内庁御用掛(※6)の国府種徳（こくぶたねのり）が濟生会四半世紀の意義を寄稿しています。

その中で「本稿では、之を濟生勅語と申し上げることにした」とされ、以来「濟生勅語」と呼ばれるようになりました。

※1 勅語(ちよくご)：天皇が口頭で行う意思表示。

※2 内帑金：天皇陛下の私的なお金のこと。現在は、御手元金（おてもとぎん）と呼ばれる。

※皇室経済法の定めるところにより宮内庁の経理に属する公金とされない金銭

(皇室経済法第4・6条)

※3 150万円は現代の金額で約16億円。

現在でも本会は「基本財産」として残しており、額面はそのまま、150万円です。

※4 本会第1号の病院：神奈川県病院（1913(大正2)年開設）

※5 勅語書：「濟生勅語」を書面に起こしたもの。原本は宮内庁保管されています。

※6 御用掛（ごようがかり）：顧問

済生会の理念 「施薬救療の精神」

施薬救療（せやくきゅうりょう）

施薬救療というのは、四字熟語ではありません。

「施薬」とは無償で薬を施すこと

「救療」は無償で治療すること

皇室には代々、「施薬救療」によって国民を救済する伝統があります。古くは、聖徳太子が難波(大阪)に建立された四天王寺に併設の「施薬院」「療病院」「悲田院」があり、代々、医療のみならず常に国民の生活を案じて慈恵救済を行ってきました。

「生活苦で医療を受けることができずに困っている人たちを施薬救療（無償で治療すること）によって救おう」という意味です。

この言葉は、社会的弱者をはじめ、すべての人々に保健・医療・福祉をいきわたらせる救済の心を表しています。

済生会人とは

済生会人とは、「施薬救療の精神」を理解し、体現する人材です。

済生会人は、本会設立の歴史的意義を自覚し、歴史の重さから生み出される品格を示していかなければなりません。

生活困窮者を救済するための社会保障制度が整う今日においても、現実的には救済しきれない新たな複雑化した問題を抱える生活困窮者は存在しており、更にはその存在自体が埋もれている（顕在化していない）生活困窮者も存在します。済生会人は「社会の最終ライン」を守るという気概を持って、制度や市場原理では対応できない生活困窮者を救済していきます。

人の幸せに資するよう、「おもいやりの精神」でのぞみます。

全職員が倫理観や人権意識を自覚し、本人の意思を尊重しながら真のニーズや背景にある課題を把握すること、おもいやりの精神を持つことが必要です

専門職として身に着けるべき確かな知識と技術に基づく質の高いサービスを提供します。

済生会に勤める全職種について、その役割において求められる確かな知識と技術を身に着け、患者・利用者の意思を尊重しながら、質の高いサービスを提供することが必要です

地域に根差し、人と人をつなぎます。

個々の有する知識や技術だけでは限界があることを深く自覚し、広く、多様なつながりを構築して地域社会の課題をも解決し、その地域とともにまちをつくっていきます

更には国際社会の一員として、海外の途上国において生じている保健・医療・福祉に関する課題に対しても、グローバルにつながり解決していきます

未開拓の分野においても本会の力を結集し、地域の課題解決に挑戦します。

本会は、設立当初からその時代やその地域社会において求められるニーズを開拓し、先駆的な取り組みを行ってきました。これからも患者・利用者との関わりや地域社会とのつながりの中やから潜在的なニーズや地域全体の課題を見出し、未開拓の分野においても本会の力を結集し、地域の資源ともつながりながら、先頭に立って地域の課題解決に挑戦します

無駄な費用となっていないか、経営資源を有効活用しているかを点検し、事業の持続的発展に努めます。

「経営」や「経済」という言葉を「利益優先」という意味に解釈する人もいるでしょう。本会設立世話人の一人である渋谷栄一は「論語と算盤」の中で、論語と算盤は一見相反するものであるが、経営の両輪であり、公益の追求と健全経営を両立させる必要性を説いています。

職員一人ひとりが日々の業務において、常に無駄な費用となっていないか、経営資源を有効に活用しているかを意識して事業の持続的発展に努めなければ、将来の設備や人材への投資、制度の狭間に生じる課題に応じた公益的な活動を行うための原資を確保することはできません。

90周年記念ロゴ完成!!

当院は、2026年に創設90周年を迎えます。

これまでの歴史とあゆみを重んじながら、新たな挑戦を続ける決意を表明するため、90周年記念ロゴを作成しました。

創設90周年記念ロゴには、これまで先達が歩んできた90年間の足跡に心からの敬意を払い、「90周年もその先も、未来に繋げていきたい。職員は心一つに、地域と共に歩いていく。」そんな思いが込められています。

ホームページのロゴをクリックすると、当院の沿革をご覧いただけます。

当院の歴史に触れてみてくださいね。



済生会フェア開催決定!!



昨年度第1回を開催し、たくさんのみなさんにお越しいただいた「済生会フェア」を今年も開催します。

誰一人取り残さない”というソーシャルインクルージョンの理念と共にあった済生会。

その歴史や取組みに触れ、病院・医療についても知ってもらうことができ、さらに地域のみなさんとつながることができる楽しいイベントを前回よりもさらに、もりだくさんな内容で企画しています!

イベント詳細については、随時更新します! 当院のWebサイト、各種SNSをチェックしてくださいね。

- 2025年11月16日（日）10時～15時
- 北上済生会病院
- 入場無料

済生会のマスコットキャラクターご存知ですか？



●プロフィール

*誕生日 2024年3月6日

*性 格 おせっかい。

困てる人を見つけとほっとけない。

*特 技 みんなを優しく包込で笑顔にすること

*チャームポイント まん丸しっぽ



はじめまして。さいせいです！最近の悩みは足元が見えないこと。血圧は標準値ですが、体脂肪が高めです・・・

ソーシャルインクルージョンの活動を世界中に広めるために自分の分身をつくることを頑張っています。みなさんよろしくね。

ソーシャルインクルージョン講演会

「100年暮らしたいソーシャルインクルージョンなまちづくり」

済生会は創設以来の「誰一人取り残さない」というソーシャルインクルージョンの理念の下、全国で「誰もが地域の一員として、ともに暮らせるまちづくり」を推進しています。

当院でも本取り組みについての理解を深め、推進するため、医療・福祉・介護を通じた地域貢献に加え、地域課題を解決し、新たな価値を創造していく「まちづくり」を推進している北海道済生会の取り組みや、経営への波及効果について、北海道済生会 常務理事 櫛引 久丸 氏先生にご講演いただきます。

日 時：2025年7月15日（火）16:00～17:30（質疑応答含む）

場 所：当院2階大会議室

対象者：岩手県済生会、北上済生会病院、済生会岩泉病院、
済生会陸前高田診療所、特別養護老人ホーム百楽苑、
訪問看護ステーション北上済生会 役職員

ソーシャルインクルージョンを考える Webメディア「シンク！」

済生会の新ウェブサイト「知る・見つける・支えるソーシャルインクルージョン」(愛称：シンク！)が2月19日、オープンしました。

このサイトは「社会から誰一人取り残さず、すべての人が社会で共に生きていく」というソーシャルインクルージョンの理念を一般に広く知ってもらうものです。

メインのコンテンツである「知る」では、済生会に限らずソーシャルインクルージョンの実現に向けて活動する人々の思いを紹介しています。

「見つける」では、全国の済生会施設のソーシャルインクルージョン推進計画をデータベース化(1641の決意)。エリアやカテゴリなどの絞り込み検索も可能です。

済生会は、「済生会ソーシャルインクルージョン推進計画」として現在1771のソーシャルインクルージョン活動に取り組んでいます。

あなたのまちの活動や、気になるジャンルの活動を探してみませんか。



済生会看護部リクルートサイト

済生会看護部のリクルートサイトが4月9日オープンしました！

済生会では、病院や福祉施設で患者さんや利用者に寄り添う看護職員や、医療福祉の枠組みを超えてさまざまなフィールドで輝く済生会ナースのことを、「なでしこナース」と呼んでいます。

なでしこナースは、地域に根付いたさまざまな場所で「やさしさ」と「思いやり」にあふれた看護を実践しています。

同ページでは、活躍の場や地域での取り組み、福利厚生など「なでしこナース」の魅力をご紹介します。



市民公開講座（7月、8月の予定）

7月26日（土） 息切れは心臓のSOS「心不全を正しく知ろう」
循環器内科科長 六本木 啓 先生

8月9日（土） 「突然の症状こんな時どうする？」
小児科科長 角掛 和音 先生

当院では、患者さんやご家族が正しい知識を持ち、安心して治療に臨んでいただけるよう昨年度から市民公開講座を開催しています。

時間は14:00～15:30（開場13:30）、会場は当院大会議室です。

詳細は、北上市広報誌、院内掲示のポスター、または当院のWebサイト、各種SNSでご確認いただけます。

さらに、当院の市民公開講座は、きたかみ健康福祉ポイント（きたポ）対象です！しっかり学んでお得にポイントもゲットしてくださいね。

みなさんのご参加お待ちしております。



北上済生会病院presents

地域と共に【エフエム岩手 第1・3金曜日 16:15放送中】

当院のラジオ番組「北上済生会病院presents 地域と共に」好評につき、7月から放送枠を6分に拡大してお送りします！！

初回拡大版は、「小児科について」小児科の角掛先生にお話を伺いました。

小児科のかかり方や救急外来の利用の仕方など、子育て中のパパ&ママはもちろん、みなさんが知りたい情報が盛りだくさんです。

また、角掛先生が医師を目指したきっかけや診療に対する思いも伺いました。

これから医師を目指す方、勉強中の学生さんへのエールも添えられています。

先生の人柄が伺える優しいトークを、みなさんぜひ聞いてくださいね！

放送は、7月4日（金）、18日（金）いずれも16:15～です。

お楽しみに♪

済生会から始まるUPCYCLE

「習志野×北上でつなぐソーシャルインクルージョンの取り組み」

昨年度に初開催した「済生会フェア」以降、当院は就労継続支援B型事業所とさまざまな取組を進めています。その中で出会った「幸呼来（さっくら）Japan」が、着物や浴衣の生地を募集していることを知り、済生会広報ブランディングプロジェクトのメンバーと寄付活動を共有し、協力を呼びかけました。

「幸呼来Japan」は、障がいのあるなしに関わらず、一人一人が自立した人間として認め合い、心豊かに過ごせる社会を目指しています。同団体は盛岡さんさ踊りの浴衣や寄付された着物を東北の伝統工芸「裂き織」でアップサイクルし、ポーチやコースターなどに再生させています。

この活動に共感した習志野病院さんが、職員から寄せられた着物17枚と病院で使用しなくなった浴衣27枚を寄付してくれました。習志野病院では、院長はじめ管理者のみなさんが「すばらしい取組みだ」「ソーシャルインクルージョンについて考えるいいきっかけになる」と、この取り組みを後押し、職員のみなさんからは「亡くなった母が着ていた着物を活かすことができるのは嬉しい」、「遠くの土地で活動に協力できるのは、済生会の規模のメリットだ」という反響があったそうです。

習志野病院から寄付された着物や浴衣は、「モノを大切にする心を込めた東北からの贈り物」として、11月16日開催の「済生会フェア2025」で販売されます。その日を、楽しみにお待ちください。



笑顔で受け取る幸呼来Japanのみなさん



職員のみなさんの想いと一緒を送られたお着物

看護の心を伝える「ふれあい看護体験」

ふれあい看護体験は、県内の中高生や看護職を目指す一般の方を対象に、施設見学や看護体験を通して「看護の仕事」について理解を深め、医療や介護・福祉施設など患者・利用者・職員とのふれあいを通して、看護することや命の大切さについて理解と関心を深める機会とすることを目的として、岩手県看護協会が主体となって毎年実施しています。

今年は67名と例年よりも多くのご応募をいただき、実施日を5月13日（火）、15日（木）、22日（木）の3日間に増やして49名の学生さんにご参加いただきました。

参加者のみなさんはユニホームに着替え、済生会や看護業務などについてオリエンテーションを行った後、4つの病棟に分かれて患者さんとの交流をはじめ、手浴や足浴、車いす介助など様々な看護業務を体験しました。

参加者からは、「患者さんにありがとうと言われて嬉しかった」「看護の仕事を初めて近くで見て、看護師への憧れが強くなった」「将来の夢が決まってくなくて、体験することによって視野が広がり、何かが変わるんじゃないかと思って参加した。看護の難しさを学んだ体験でした」など、すてきな感想をいただきました。



高橋総看護師長は、「ふれあい看護体験を通じて、人との関わり大切さを体感して欲しい。医療職を目指すきっかけになってくれたら嬉しいです。」と参加者にエールを送っていました。

参加者のみなさん、当院を選んでくれてありがとうございました。

またお会いできるのを楽しみにしています！

題名の起こり

伊藤彬氏(※)の「助け合いの精神である結(ゆい)の心を中心にして、人の縁を大切にする精神を育てれば地域は強くなる」という教えを守り継ぎたいという思いから「結(ゆい)」としました。

人と人とのつながりが生まれ、情報発信をしたり、新しいコミュニティができたり、そんなことを繰り返して地域が活性化していく、地域のプラットフォームの役割を担えるような広報誌を目指します。

取材へのご協力よろしくお願いいたします。また、取材依頼もお待ちしております！お気軽にご連絡ください。

(※)伊藤彬氏：元岩手県済生会支部長・前北上市長
当院の起こりである黒沢尻病院の創立者伊藤治郎助のひ孫



公式HP・Instagram・X更新中！



恩賜 社会福祉法人 KITAKAMISAISEIKAI HOSPITAL
財団 済生会 北上済生会病院

〒024-8506 北上市九年橋三丁目15-33
TEL.0197-64-7722
mall.kitakami-mkt@saiseikai-hp.or.jp